

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポートハウスおりいぶ		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		～ 2024年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29人	(回答者数) 25人
○従業者評価実施期間	2024年 12月 15日		～ 2024年 12月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 9人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○同法人内に、就業継続B型事業所があり、卒業後や放デイ終了後の生活や就労に置いて、イメージが持ちやすい	○年に1回、保護者会と称して、就労継続B型事業所の見学会を保護者や放デイ利用児を対象として実施している ○長期休暇や土曜日利用に、高校生を対象に就労体験の実施を行っている	○保護者会の実施回数を増やしていき、同法人内以外の就労継続B型事業所の見学会や体験会を実施していく。また、関係事業所を招いての情報交換会を保護者向けに実施していく ○長期休暇や土曜日の就労体験を固定して、メンバーの拡充を図る。また、法人以外の就労事業所の体験も検討・実施していく
2	○支援学校利用児と地域の学校の支援級利用児のすみ分けを利用を行い、障がい特性に合わせた、柔軟かつ変化に富んだ支援を提供している	○個別支援計画に基づき、本人の意思も確認しながら、提供できる支援や身につけていくべき支援を適宜に提供している	○支援の幅や内容の充実を図る為、職員知識の研鑽を図るため、研修への参加や多事業所との情報交換会等を実施していく
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○保護者(外部、関係機関等)への情報発信に偏りがある	○毎月の活動便りには記載されているが、実際行ったイベントや企画、活動の報告の数が出来るときとそうでない時の差が大きく、しっかりと発信できないことが多い	○活動の記録とは別に事業所が取り組んだこと等は、SNS等で発信していく。その企画を担当した職員が報告まで行う等、分担制にして発信をしていくことを意識付ける
2	○各種の危機管理マニュアルの提示がなされていない	○事業所にはマニュアルは存在しているが、利用契約時に説明後は特に発信等していない	○有事が起きた場合や状況が変化した場合は、その都度マニュアルを見直し、保護者への説明を行う。また、訓練活動なども実施後はSNS等で発信していく
3	○関係機関との情報共有がまだまだ希薄である	○現状で満足できている部分が多いこともあり、何かあった時に情報共有を行っている	○相談員や就業前に通っていた保育園・幼稚園、主治医や担任の先生、他事業所と利用する時点で交流を図り、繋がって置き「顔の見える支援」を実現出来るように放射状のつながりを意識するようにする